

目次

大学院 30 年の道のり、1000 本の論文“並木”・・・p1  
六本の“木”(分野・領域)の下で、知が織りなす風景・・・p2-3  
修士論文・博士論文、しおりちゃん、10 歳に・・・p4

## 大学院 30 年の道のり、1000本の論文“並木”

新しい年が始まりました。今年は学院創立 140 年の節目となる年です。

大学院はそれに先立ち昨年開学 30 年迎えました。大学院開学 10 年目に建設された現在の本部・大学院棟も築 20 年になりました。

主に社会で活躍されている方が集う夜間大学院として開学して以来、“植樹”(提出)されてきた論文・研究成果は、まもなく 1000 本になります。(2023 年 9 月現在、999 本。→ p.4)

大学院に提出された論文は、仕事や生活の中で沸き起こった切実な思いを胸に抱いて入学し、先生方の導きを受けつつ、院生仲間とそれぞれが培ってきた知識や経験を交流させながら紡ぎ出された知の結晶です。

修了された方々はそれぞれの分野でご活躍されています。既に天に召された方もおります。本も、記事も、電子コンテンツも、すべての情報には筆者の「知ってもらいたい。伝えたい。」という想いが込められています。

論文においても、先輩方がまとめられた成果を参照・吸収しつつ、自身の研究、考察、実習、フィールドワークなどを経て論文に結実させることで、知の遺伝、魂のバトンとして受け継がれていきます。



# 六本の“木”(分野・領域)の下で



本部・大学院棟前景



## 「無名になる楽しさ」

大学院では、様々な職業・専門を持つ人が同じ教室に集まり、同じテキストに向き合う時間を持ちます。院の外では「〇〇先生」や「〇〇長」と呼ばれる立場にある人も、ここでは一人の「学問の徒」です。そうしたフラットな場が生み出す、活発で知的楽しさにあふれた空気を授業で感じるたびに、未来の教育の形を予感します。

立場・役割という「名前」から離れて「無名」の目線に立ち返る場所こそ、大学院なのかもしれません。

人間科学研究科准教授 尾崎 博美 (教育学)



## 知の森

大学院の図書室は大学院棟の地下1階の奥にその入り口がありながら、図書室の中に入れば隣の中学部・高等部の校庭が見え、明るい空間になっています。

そしてさらに階段を下に下ると地下の空間の天井付近に明かり取りの窓があり、半地下の不思議な空間になっています。影と光が織りなす独特の雰囲気はまるで森の中を歩いているような静寂さがあります。

そしてそこで出会う数々の書籍や論文は、森に咲き実る花のように私たちに誘い、果実のように私たちに恵みをもたらしてくれます。その森を育み守り続けてくれる図書室の職員の方々、そしてそれらの花や木の種を芽吹かせてくれた修了生や先達の師に感謝しつつ、皆さんにも知の森の探索にいそしんでもらいたいと思います。

人間科学研究科長・教授 福田 周 (臨床心理学)



図書室



こころの相談室



## 中国からやってきた留学生、二人の思い出

改革開放政策が本格化して以降、欧米や日本に向けて中国から沢山の留学生が出国しました。

六本木の本学でも、これまで20代後半の二人の女子学生が学んでいます。圧倒的な熱意もあり両名の指導を引き受けましたが、本国で卒業論文を書いた経験がなく、日本語能力にも執筆という点では限界もあり、迷走しながら修論の完成に漕ぎつけた記憶があります。一人は中国に戻り、もう一人はフランスに向かいました。いつか本学を再び訪ねてくれたらよいなと思います。

もちろん新たな留学生も大歓迎です。

国際協力研究科教授 望月 敏弘  
(中国近現代史・日中関係)

# 知が織りなす風景



## ゼミ後の風景

社会人大学院での私のゼミは、ほかもきっとそうなのでしょうが、理論とそれぞれの実践の接面です。

院生は、講義、学術書や論文で得た知識と教師や保育者としての自らの実践を突き合わせながら、毎回の発表を準備し、親密で熱心な議論が展開します。ゼミが終わると、エレベータの前では「また次回」とあいさつが交わされますが、「私、図書室に行きます」と、あの地下空間に向かうのです。十分に消化できなかった事柄や新たな疑問、それらを抱えてエレベータで地下の図書室へと向かう人の表情は、自ら課題を発見した高揚感を湛えています。

図書室は、学びを支えるもう一つの空間です。

人間科学研究科教授 西 洋子（幼児教育・発達臨床学）



院生研究室



## 「知の寄せ鍋」を囲む幸い

院生の皆さんのバックグラウンドは実に多彩です。年齢はもとより、仕事にしても「会社員」「音楽療法士」「看護師」などさまざまです。

そして、現代社会の「生」と「死」を探究するにもそうした多様な知識と経験が持ち寄られ、具体的な“life”（生命、人生、暮らし）につねに結びついた議論がなされることで、語られること・書かれることに「血が通う」ようになります。

社会人大学院ならではの「味わい」——よさとユニークさ——がそこにあると思います。

人間科学研究科教授 田中 智彦  
（倫理学・死生学）



ラウンジ



## 大学院 NEXT30!

1993年の開学以来すでに約200名の修士号取得者を輩出した国際協力研究科。不確実な世界だからこそ世界は協力しなければなりません。

六本木キャンパスでは対面とオンラインの並行授業「ハイブリッド授業」の実施、そして2023年度からは社会人の要望に応え修士論文の執筆の他「コア・レビュー」という研究成果で修了できる制度を始めました。国際協力の核（コア）となる文献を比較検討し、その学術的な価値を論理的に説明（レビュー）する成果を2年間に4本提出します。

次の30年に向けて新しくなった国際協力研究科。国際協力のあり方を研究しています！

国際協力研究科長・教授 河野 毅（国際政治）



授業風景



## 修士論文・博士論文

大学院開学以来提出された修士論文・研究成果・博士論文は、大学院図書室に所蔵しており、利用することができます。

複写を希望される場合は、執筆者から直接許可を得る手続きが必要になります。

図書室に備えている「修士・博士論文複写申込書」を記入し申し込んでもらうと、図書室から執筆者に送付します。執筆者から返送されたとき、署名・捺印により許可を得られましたら、図書室内で複写できます。

博士論文は最高学位の業績として、以前は学位を授与した大学と国立国会図書館で冊子を所蔵していました。本学の冊子の博士論文も、7号まで大学図書館と大学院図書室、及び国立国会図書館で所蔵しています。

2013年の学位規則改正により、博士論文はリポジトリ(\*1)を通して、インターネット公開が原則(\*2)となりました。

本学では1号、8号～11号が「東洋英和女学院大学学術リポジトリ」から公開されており、利用することができます。

\*1 大学や研究機関などが学術業績を公開するウェブサイト。

\*2 臨床心理学などの分野において相談事例など個人情報保護の必要性があるときは、複写可能箇所を制限もしくは複写不可という場合もあります。



### 【論文・研究成果提出数 (2023年9月現在)】

#### ◎修士論文

人間科学研究科	784本
社会科学研究科 (1993年4月～2005年3月)	99本
国際協力研究科 (2005年3月～)	105本

#### ◎博士論文

人間科学研究科	11本
計	999本



東洋英和女学院大学学術リポジトリ

## しおりちゃん、10歳に

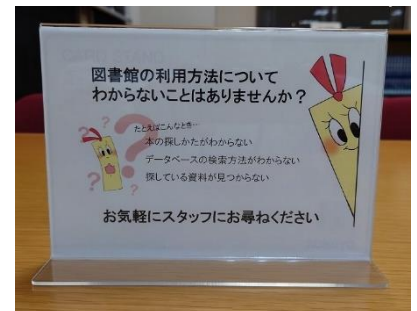
胸のかえでマークがチャームポイント(!)  
本と仲良し(!!)の“しおりちゃん”。

2014年に図書館キャラクターとして学生から公募し、  
その中から投票によって選ばれました。(!!!)

図書館に来られる皆さんの案内に、掲示やポスターなどで活躍しています。

今年で“満10歳”になります。

いつも図書館でお待ちしています。  
これからもよろしくお願ひします。



大学院でもお手伝い

(編集担当：大学院図書室 横田)